

福武ハウス アジア・ギャラリー 展覧会 「眼にみえる魂」

ベネッセアートサイト直島が所蔵するアジアの現代アートコレクションを中心に

「福武ハウス」（小豆島町福田地区、香川県）では、ベネッセアートサイト直島が所蔵するアジアの現代アートコレクションを中心とする展覧会「眼にみえる魂」を、瀬戸内国際芸術祭2019の期間中に開催いたします。

今回、建築家の西沢立衛により福武ハウス2階の空間を新たに改装し、アジア・ギャラリーとしてオープンします。展示会のタイトルでもある「眼にみえる魂」とは、出品作家の一人であるインドネシアのヘリ・ドノの創作に大きな影響を与えたS.スジョヨノ¹の言葉で、芸術とは生活の美しい面だけを描写するのではなく、私たちの日常生活に対するアーティストの思いを反映したものでなければならないことを示唆しています。

その精神はベネッセアートサイト直島の考え方とも共鳴し、福武ハウスに集められた作品の数々は、アーティストたちの思い（魂）の結晶として、私たちの生きる現代社会や環境、人間の生に対して鋭い視線を投げ掛け、観る者に「よく生きる」について様々な思索を促すかのようです。今回の展覧会では次のアーティストによる作品を展示しています。

- ズルキフリ・マハムード「SONICreflection」2016年
- リー・キット「Sketching the weight of idleness」2019年
- ヘリ・ドノ「The Odyssey of Heridonology」2014年
- ヘリ・ドノ「Angels Fallen from the Sky」2004年
- パナパン・ヨドマニー「Aftermath」2016年
- 毛利悠子「鬼火：小豆島」2013-/2018年
- アイ・ウェイウェイ「Dumbass」2013年
- インディゲリラ「Sahabat Alam / Friend of Nature」2019年
- インディゲリラ「Gotong Royong / Teamwork」2019年

瀬戸内国際芸術祭2019春会期オープンに際して、「福武ハウス アジア・ギャラリー クラスルーム」を開催します。元々学校であったこの場所の記憶を継承し、単なるアート作品の展示だけに終わらず、「クラスルーム」の名のもとに、様々な形の「学び」を意識した関連企画を充実させていく予定です。その第一回の4月26日（金）は、参加アーティストのヘリ・ドノを迎えて、長年にわたる活動や作品の背景にある社会、歴史、文化に対する理解を深めることで、ローカルな問題をグローバルな視点で考える能力を養ったり、若い世代がアーティストという生き方に触れる貴重な機会になればと考えます。ぜひご取材賜りますようお願いいたします。

福武ハウス アジア・ギャラリー クラスルーム 「MEETING アジア・MEETINGアーティスト：ヘリ・ドノ」

予定日時：2019年4月26日（金）13時30分～15時00分

予定内容：

- イントロダクション（展覧会キュレーター 三木あき子）
- アーティストトーク（ヘリ・ドノ）



¹ 1913～1986。インドネシア近代絵画の父と称される画家であり美術批評家。20世紀前半において、西洋とは異なる特有の美術の在り方を説き、インドネシアにおける近代美術の運動で中心的な役割を果たしたといわれています。

取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

ベネッセアートサイト直島 広報担当 栗原・末廣

〒761-3110 香川県香川郡直島町2249-7 Tel.087-892-2550 Fax.087-892-2011

E-mail press@fukutake-artmuseum.jp <http://www.benesse-artsite.jp/>

ヘリ・ドノ

インドネシアの現代美術界で最も重要かつ国際的に活躍する作家の一人であるヘリ・ドノの作品では、伝統的な影絵芝居ワヤン・クリ等の伝統的表現と現代の手法の融合、空想上の怪物や獣等のキャラクターの多用によるブラックユーモアと不条理性に満ちた物語性と政治風刺が特徴的である。

2015年のヴェネツィア・ビエンナーレや日本におけるミヅマアートギャラリーでの個展のほか、今日に至るまでヘリ・ドノは世界中で数多くの展覧会に参加。Prince Claus Fund Award 1998、UNESCO Prize 2000やインドネシア政府によるAnugerah Adhikarya Rupa 2014（インドネシアン・アート・アワード）など受賞歴多数。



福武ハウスについて

「福武ハウス」は、小豆島・福田地区とアジア諸地域をアートでつなぐプラットフォーム「福武ハウスーアジア・アートプラットフォーム」として、2013年の瀬戸内国際芸術祭から始動しました。

旧小豆島福田小学校を再生した福武ハウスの他、アジアの料理を福田の地域住民がふるまう「福田アジア食堂」などを設置し、福田地区住民とアジアの地域密着型アーティストおよび団体の相互理解を促進する実践とプレゼンテーションの場を提供しています。アートを通してアジア諸地域の文化と多様な人々が交錯することにより、相互の活動の幅を広げていくことを目的としています。

このたびオープンするアジア・ギャラリーは、美術館のようにアート作品を恒久展示する施設ではなく、小さな集落の美術展示空間の在り様や可能性を模索するひとつの実験型として、ベネッセアートサイト直島が所蔵するアジアの現代アートコレクションを中心とした展覧会を通じて、日本のみならずアジア諸地域の文化や歴史などを感じ、自由な意見交換ができる場になる事を目指しています。

ベネッセアートサイト直島について

「ベネッセアートサイト直島」は、1987年以来、瀬戸内に浮かぶ直島、豊島、犬島の3つの島を舞台に、株式会社ベネッセホールディングスと公益財団法人 福武財団が展開しているアート活動の総称です。

瀬戸内海の風景の中、ひとつの場所に、時間をかけてアートをつくりあげていくこと—各島の自然や、地域固有の文化の中に、現代アートや建築を置くことによって、どこにもない特別な場所を生み出していくことが「ベネッセアートサイト直島」の基本方針です。

各島でのアート作品との出会い、日本の原風景ともいえる瀬戸内の風景や地域の人々との触れ合いを通して、訪れてくださる方がベネッセグループの企業理念である「ベネッセ—よく生きる」とは何かについて考えてくださることを願っています。

そして、活動を継続することによって地域の環境・文化・経済すべての面において社会貢献できるよう、現代アートとそれを包含する場である地域がともに成長し続ける関係を築いていきたいと考えています。

取材・掲載の際には、担当者までご連絡いただくか、専用ページよりお申し込みください。

| 取材申し込み専用ページ | <http://benesse-artsite.jp/contact/press/>